

第5学年C組 家庭科学習指導案

授業者 佐々木 絵理子
研究協力者 堀江 さおり
教材分析協力者 西川 竜二

1 題材名 めざせ！快適生活 ～すずしい着方を考えよう～

2 子どもと題材

(1) 子どもについて

子どもたちは初めての家庭科学習に期待と意欲をもって取り組んでいる。現段階では既習事項が少なく、実生活と学習を結び付けて捉えるには至っていない。本校では制服を着用していることから、子どもがその日の気温や場面に合わせて登校時の衣服を選択する経験は少ない。衣生活についての事前調査では、自分で休日の日常着を選択すると答えた子どもが最も多かった。しかし、用意された服を着る、だいたい服装のルーティンが決まっていると答えた子どももいた。また、日常着を購入する際に、自分で選んでいる子どもは34%、残りの子どもは親と一緒に選ぶ、親が選んだものを着ているという結果であった。自分で選んでいる子どもが重視する点は、デザインが最も多く、次いで素材、色、値段であった。気温に合わせて衣服を脱ぎ着する意識はあるが、色や形、素材、着方によって快適さが変わるということには気付いていない。また、さらさらした、メッシュ、薄いなど、布地のイメージはあるものの、綿や毛、ポリエステルといった素材の名前や性質についての知識はもっていないことも分かった。

(2) 題材について

本題材では、日常着の快適な着方や手入れの仕方について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、工夫することができるという資質・能力を高めることを目指す。日常着の着方と手入れに関する実践的・体験的な学習活動を通して、それらに係る技能を身に付けるとともに、学んだことを生活場面において実践しようとする態度を育成することができる題材である。第4学年理科「天気と気温」の学習と関連を図り、同じ一日であっても場所や時間によって気温に変化があることを想起する場を設定することで、夏だから、暑いからという理由だけではなく、生活の場面や目的に合った衣服の着方があることに気付くことができる。洗濯については第4学年社会「水はどこから」との関連を図り、洗剤の使用量と汚れの落ち方についても触れる。また、衣服の素材やボタン付けなどの手入れの仕方は、次の学習題材である「手ぬいで作ろう！小物作り」と学びをつないでいく。本学習の時期が初夏であることと、10月の宿泊体験学習を具体的に考えるための実践場面として設定したことから、「暖かく快適に過ごす着方」よりも先に学習することにした。

(3) 指導について

本題材で育む資質・能力を高めるために、健康・快適・安全の視点から衣服の形や素材などに着目し、快適な衣生活について工夫しながら考えるという「見方・考え方」を題材を通して働かせる。

導入では、自己の生活において解決すべき自分の課題を見いだすために、普段着用している制服や体育着、給食着などの衣服の形や素材に着目し、気付いたことや疑問を出し合いながら学習課題を設定する。夏服や冬服の違いについて、改めて色や形、素材などを比較することで、今までは自然と行っていた制服の着用が、科学的に理にかなっていることを検討する場を設ける。

第3・4時には、快適さの条件はどのようなものか考えるために、布の通気性や吸水性、襟や袖の開閉による衣服内の変化、下着の必要性を確かめる被服実験を行う。導入で取り上げた身近な衣服素材を実験材料とすることで、これまで何気なく感じていた、涼しさや快適さの要因について、数値の測定や事象の観察を通して科学的な見方で捉えられるようにする。また、実験の様子を撮影したり、気付いたことや考えたことをホワイトボードに書き留めたりすることで、効果的な省察へとつなげていく。

第5時は、実験の結果を基に、快適な着方に必要な条件を選択する。快適かどうかを判断するには、単に涼しさを求めるだけではなく、活動の場所や目的、内容なども重要であると気付くことができるように、宿泊体験学習の場面を提示し、衣服の選び方や着方の工夫について考える活動を設定する。

本題材での実践的・体験的な学習活動を通して、実感を伴いながら、快適に過ごすための衣服の着方の工夫とその効果を理解することによって、学んだことを生かし自分で衣服を選んだり、着方を工夫したりする姿へとつなげていく。

3 題材の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

- (1) 衣服の主な働きが分かり、季節や状況に応じた日常着の快適な着方や手入れの必要、洗濯の仕方を理解し、適切にできる。 (B-14, B-15)
- (2) 日常着の快適な着方について、問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、工夫することができる。 (B-16)
- (3) 日常着の快適な着方について課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。 (オ・カ・B-16)

4 題材の構想（総時数 8 時間）※選択・決定を通して、自律的に学習を進めるための支援

やってみよう 家庭の仕事
 ・日常生活の中からの課題設定 ・日常着の着用 ・衣服の手入れ

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉
1	(1) 暑い季節に気持ちよく生活したり、学習したりするために必要な条件を予想する。 ・暑い時は肌をおおわない形がいいかな。	・暑い季節の快適な着方の条件を引き出すために夏の気候や服装を想起させ、色や形、素材、厚さ、襟や裾の広がり具合について話し合う場を設ける。	・日常生活の中から解決すべき問題を見いだし、課題を設定しようとしている。 〈オ〉
2	(2) 色や形、素材などの視点から衣服を観察し、季節や場面に合った衣服の役割について知る。 ・普段着ている服は何からできているのだろうか。	・季節や場面に合った着方や役割に気付くように、夏、冬の制服、給食着や体育着などの身近な衣服を例に挙げ、色や形、素材などを比較する場を設ける。	・衣服にはどのような働きがあるかを考えている。 〈B-14〉
3	学習課題		・日常着の快適な着方について問題を見いだし
4	暑い季節を快適に過ごすには、どのような着方をしたらよいのだろうか。		ている。 〈B-16〉
5	(3) 自分の課題と仮説を基に被服実験を行い、快適な着方について検証する。 ・通気性がよいのはどの素材か調べてみよう。 ・汗をかいたときは吸水性が大切だと思う。 ・他に快適さの条件はあるかな。	・個の課題を解決できるように各自に検証方法を選択して実験して確かめる活動を設ける。 ・検証の根拠となるように実験中の様子や気付きを動画やメモで記録する活動を取り入れる。 ・個の課題が解決できるように、通気性、吸水性などを確かめる実験の場を設ける。	・生活課題について自分の生活経験と関連付け、様々な解決方法を見いだそうとしている。 〈カ〉
6	(4) 実験結果を根拠に、快適に過ごすための条件を考える。 ・全ての条件を入れることはできるのかな。 ・場面によって「快適さ」の条件は変わるかもしれない。	・実験結果を生活場面と結び付けて考えることができるように、宿泊体験学習の場面を設定し当日予想される気候や活動内容を提示する。 ・快適な着方を多角的に捉え衣服の役割や条件についての考えを再構築できるように、実験結果のまとめを提示する。	・快適に過ごすための衣服の着方の工夫について考えている。 〈B-16〉
7	(5) 衣服の汚れについて知り、洗濯の実習計画を立てる。 ・衣服を手入れすると快適に着ることができるね。	・快適に着るために汗や汚れを洗濯する必要性を感じることができるよう、汚れの種類や汚れによる性能の変化について例示する。	・日常着の快適な着方や手入れの仕方を考えている。 〈B-16〉
8	(6) 手洗いによる洗濯実習を行い、汚れの適切な落とし方を確かめる。 ・汚れに合った洗い方をするときれいになるね。	・汚れを落とすことだけでなく、環境に配慮した洗濯ができるように、洗剤の使用量と洗浄効果についての資料を提示する。	・日常着の洗濯の仕方が分かり、適切に行っている。 〈B-15〉
8	(7) 本題材の学びを振り返る。 ・季節や場面に合わせて、着方を工夫することで快適に過ごせるね。 ・汚れが落ちていると快適に着ることができるね。	・学んだ衣服の着方の工夫を振り返り今後の生活につなげることができるように、これまでの着方や衣服の選び方に、理由や改善点を加える場を設ける。	・衣服の働きや手入れの仕方が分かり、快適な着方について自分の生活と結び付けて考えている。 〈カ、B-14, 15, 16〉

◎本題材で育む主な資質・能力
 日常着の快適な着方や手入れの仕方について問題を見いだし課題を設定し、様々な解決方法を考え、工夫することができる。(B-16)

すずしく快適に過ごす住まい方 住まいの主な働きや季節の変化に合わせた住まい方を考える。
 暖かく快適に過ごす着方 気温や季節の変化や生活場面に応じた衣服の着方を考える。

5 本時の実際（5／8）

(1) ねらい 衣服の色や形，素材などに着目し，実験結果を比較して話し合うことを通して，快適に過ごすための衣服の着方の工夫について考えることができる。 〈B-16〉

(2) 展開

○省察を通して，自律的に学習を進めるための支援

※選択・決定を通して自律的に学習を進めるための支援

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の支援 評価
6分	<p>① 前時までの学習を振り返りこれまでに行った実験の結果を確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綿は吸水性が高かったな。 ・襟や袖が広がっている形の方がすずしいね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を想起できるように実験の様子を提示する。 ・実験結果を示しながら，「すずしい着方」のための衣服の条件を全体で確認する。
33分	<p>学習課題 宿泊体験学習を快適に過ごすにはどのような着方をしたらよいのだろうか。</p>	
33分	<p>② 実験結果を基に，快適さに必要な条件と場面に適した着方について話し合う。</p> <p>快適さの条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・形・色・素材 ・通気性（防水性） ・保温性 ・吸水性 <p>ア 個で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日はどのくらいの気温なだろう。 ・全ての条件を入れることはできるのかな。 <p>イ グループで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外で活動するときには，たくさん汗をかきそうだな。 ・下着を着ると汗をかいても快適に過ごすことができそうだな。 <p>ウ 全体で話し合う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人や場面によって「快適さ」の条件は変わるかもしれないな。 ・工夫することで，場面や気候に合った着方ができそうだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・快適な着方を多角的に捉え，衣服の役割や条件についての考えを再構築できるように，実験結果のまとめを提示する。 <p>※宿泊学習の活動場面を提示することで，具体的なイメージをもって，自分に合った快適さの条件や着方を選択できるようにする。</p> <p>○場面と結び付けて必要な条件を考えられるように，子どもからの疑問点を取り上げ，宿泊体験学習の気候情報や活動内容を提示する。</p> <p>活動場面と活動内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日中の体育館で運動・山中のウォークラリー ・施設内での食事 ・就寝中 ・夜のキャンプファイヤー <p>・自分事として着方を考えられるように，活動場面を自分で選択できるようにする。</p> <p>○同じ場面設定で考えの根拠を示しながら話し合いを進められるようにグルーピングをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面のグループごとに考えた快適さの条件と着方の工夫を出し合い，自他の考えを比較する場を設定する。 ・場面ごとの着方の工夫が比較しやすいように，条件と着方を表にまとめ，可視化する。
6分	<p>③ 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天気によって気温が違いそうだから，対応できるように重ねるなど着方を工夫したい。 ・快適な着方の工夫は一つではないんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを深めることができるように全体での話し合いを基に宿泊体験の着方について振り返るように促す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>快適に過ごすための衣服の着方の工夫について考えている。</p> <p style="text-align: right;">〈B-16〉（発言・ワークシート）</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次の学びにつながる振り返りを紹介し，家庭での実践への意欲付けを図る。